

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	27	文化芸術活動の充実		
主な取組	○ 文化芸術活動への参加の促進			
	○ 子供たちの文化芸術活動の充実			
	○ 障害者の文化芸術活動の支援			
	○ 県立美術館などにおける活動の充実			
	○ オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興			
担当課	特別支援教育課、文化財・博物館課、生涯学習推進課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭の開催	8,292	<p>地域に根差した埼玉文化の創造に向け、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供するため、埼玉県芸術文化祭を開催する。</p> <p>○地域文化事業（53団体が55事業を実施、583,386人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など県内各地で開催 <p>○第71回埼玉県美術展覧会（出品点数3,191点、出品者数2,664人、観覧者数18,011人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の創作した美術作品を県立近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門） ・高校生等の芸術活動を応援するため「高校生奨励賞」を新設 <p>○芸術文化ふれあい事業（54事業実施、5,861人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化団体が学校や公民館などに出向いて、公演や実技指導を行う事業 <p>○協賛事業（71事業承認、400,623人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認 	<p>埼玉県芸術文化祭の参加者数が新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度以来、4年ぶりに100万人を超え、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供することができた。（参加者数1,010,545人）</p> <p>しかしながら、市町や文化団体が実施する芸術文化祭など、複数の文化芸術事業について、新型コロナウイルス感染症拡大前の参加者数に達していない。今後は、音楽や伝統芸能など既存の文化芸術事業に加え、県民の興味・関心の高い映画やアニメーションなどの映像文化を新たに事業として開拓していくことと、これらの事業を広く県民に発信することにより、新型コロナウイルスを契機に文化芸術から離れてしまった県民を呼び戻していくことが必要である。</p>	生推
共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業のうち 生涯学習支援アドバイザーの派遣 → 施策13参照				特教
県立博物館・美術館等における教育・普及事業	16,834	<p>県民の豊かな感性や創造性を育むため、県立博物館・美術館等において、体験プログラムの実施等の教育普及活動を実施する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館（常設体験プログラム開館日全日実施、講座・体験プログラム21回実施、出前授業等54校実施、計8,398人参加）</p> <p>○さきたま史跡の博物館（講座・体験プログラム10回、出前授業等58校実施、計2,833人参加）</p> <p>○嵐山史跡の博物館（講座・体験プログラム6回、講演会1回実施、シンポジウム1回、計1,452人参加）</p> <p>○近代美術館（講座・体験プログラム31回実施、出前授業44校実施、計5,534人参加）</p>	<p>校外学習等で来館した児童生徒への体験事業や展示見学などの実施や、県民を対象とした郷土埼玉の歴史や伝統文化などに対する理解を深める各種講座の開催により、県民が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を提供することができた。</p>	文博

	<p>○自然の博物館（講座・体験プログラム15回実施、出前授業等29校実施、計1,909人参加）</p> <p>○川の博物館（講座・体験プログラム28回実施、出前授業等58校実施、計7,422人参加）</p> <p>○文書館（講座・体験プログラム4回、出前授業等25校実施、計550人参加）</p> <p>○さいたま文学館（講座・体験プログラム4回実施、計54人参加）</p>																								
県立博物館・美術館等における活動の充実 → 施策28参照		文博																							
博物館、美術館におけるSNS等による情報発信 → 施策28参照		文博																							
<p>施策指標の達成状況・原因分析</p> <p>●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>1,468,000</td> <td>1,172,164</td> <td>1,114,789</td> <td>805,886</td> <td>858,565</td> <td>977,695</td> <td>1,010,545</td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>1,478,500</td> <td>1,484,000</td> <td>1,489,500</td> <td>1,495,000</td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 複数の文化芸術事業について、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と今年度の参加者数を比較したところ、感染症拡大前の数に達していない事業が多く、感染症拡大を契機に文化芸術活動から離れてしまった県民を呼び戻し切れていないものと分析している。 経済産業省が実施した第3次産業活動指数調査（令和6年3月15日）においても、映画、音楽、芸術文化等の興行を含む生活娯楽関連サービス指数は同様な傾向である。 観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの分野を文化芸術に取り込むとした文化芸術振興基本法が平成29年に施行され、映画やアニメーションなどの観光や産業と密接に関連する映像文化の関心が高まってきた。このことは、令和4年度「文化に関する世論調査」（文化庁）において、映画やアニメーションを鑑賞した人が多いというデータに表れている。一方で、埼玉県芸術文化祭の中には、映像文化に関する事業は皆無に等しく、人々が興味を持つ分野における事業を展開し切れていない。 いかにして、県民の関心事を事業に取り込み、その事業を発信することで文化芸術から離れてしまった県民を呼び戻すかが課題である。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565	977,695	1,010,545	年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000	生推
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																		
参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565	977,695	1,010,545																		
年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000																		
<p>学識経験者の意見・提言</p> <p>本施策における中心的な事業であり、指標にもなっている埼玉県芸術文化祭への参加者数の伸び悩みについて、コロナ後の活動再開のみに期待するのではなく、県民の興味・関心の向く先を想定して事業開拓を始めたことは評価できる。映画やアニメーション分野への関心の高まりは地域を超え、全国、全世界に通じるものであるように思われる。その一方で、文化芸術活動充実のための大前提として、広く具体的事業を周知するという活動も重要であることには変わりないため、SNSの活用なども含め、一人一人が周知・提案できるような場や機会が維持されることを期待する。</p> <p>埼玉県芸術文化祭に昨年を上回る100万人が参加したことは、本文化祭が地域に根ざした活動として定着している証拠である。一方で参加している内容としては伝統的な文化事業が多く、メディア文化が少ないと思われる。また近年では新しいジャンルの芸術も次々と生まれており、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するためにも、幅広く事業を周知募集し、文化祭を盛り上げていただきたい。</p>																									
<p>今後の取組</p> <p>生涯を通じてスポーツ、文化芸術などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、特別支援学校の児童生徒が生涯学習に取り組むきっかけを作るため、引き続き、生涯学習を实践している卒業生や地域のパラアスリート・芸術家等を学校に招いて講演や実技指導を行う「生涯学習</p>		特教																							

	<p>支援アドバイザー事業」を実施し、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p>	
	<p>映画やアニメーションなどの映像文化事業を実施している文化芸術団体に対し、芸術文化祭への参加を呼び掛けるとともに、新しいジャンルの文化芸術にも目を向けていく。引き続き、事業の充実及び広報活動を強化することにより、子供たちをはじめ、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を積極的に提供し、身近な場所で文化芸術に親しみ、楽しむことができる環境づくりを推進する。</p>	<p>生推</p>
	<p>県立博物館・美術館等では、引き続き、校外学習等で来館した児童生徒への体験事業や展示見学などの実施や、県民を対象とした郷土埼玉の歴史や伝統文化などに対する理解を深める各種講座を実施していく。</p>	<p>文博</p>

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	28	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組		○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価		
		○ 伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実		
		○ 市町村の取組への支援		
担当課		文化財・博物館課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
文化遺産調査活用事業	2,644	<p>埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査等を実施する。</p> <p>また、児童生徒が実感的に学びながら、文化・文化財の価値を理解し、郷土に愛着を持つ機会の充実を図るため、博物館・美術館等と学校との連携を支援する。</p> <p>○学術調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財：映像記録「玉敷神社のお獅子さま」制作など ・自然遺産：「入間川流域自然遺産」の現地調査（飯能市・植物分野）など <p>○文化財保存活用地域計画作成支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市町村を対象とした研修会（3回、延べ54市町参加） ・協議会への参加による支援（7市） <p>○子供パワーアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博学連携による学習プログラムの普及を目的とした「博学連携に関する研修会」の実施（年1回、計12人参加） ・ニュースレター等を活用した、博学連携による学習プログラムの普及（ニュースレター年7回発行、学習用動画年3本公開） 	<p>県立博物館が学術調査を実施し、新たな資料を収集するとともに、調査の結果を公表した。また、市町村における文化財保存活用地域計画の作成及び作成後の計画の進捗について適切な支援を行った。これらにより、地域の潜在的な歴史文化遺産の掘り起こしとその魅力発信をすることができた。</p> <p>また、研修会の実施やニュースレターの発行等により、多くの教員に博学連携に関する情報を周知することで、博学連携に向けた支援と、児童生徒が博学連携を通じた学びを得る機会の充実を図ることができた。</p>	文博
文化財保護事業補助	101,156	<p>指定文化財の適切な管理を図るため、文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付する。</p> <p>○国指定文化財、県指定文化財の保存事業（国指定3件、県指定40件）</p> <p>○市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（42件）</p> <p>○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業（8件）</p>	<p>補助金の交付により、文化財の保存措置を適切に行うことができた。</p>	文博

特別史跡埼玉古墳群保存活用事業	11, 262	<p>特別史跡に指定されている埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ広く県民に発信するため、必要な整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○史跡の案内板・誘導版の設置（史跡案内板1基、誘導版1基） ○愛宕山古墳発掘調査 	<p>史跡の案内板と誘導版の設置準備が進められており、完了後は来訪者の利便性を高めることができる。また、愛宕山古墳の発掘調査では古墳の築造当時の地表面や墳丘・周堀の一部が確認され、今後の保存活用に資する情報を得ることができた。</p>	文博
埋蔵文化財保存活用事業	53, 107	<p>埋蔵文化財保護に対する理解促進を図るため、県が収蔵する出土文化財の整理・保存、遺跡見学会などの普及事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ぜい弱な出土品である金属製品（412点）、木製品（250点）の保存処理を実施 ○「古代から教室へのメッセージ事業」の実施（40校、計2,461人参加） ○遺跡見学会の実施（2回実施、計268人参加） 	<p>出土品の保存処理、「古代から教室へのメッセージ事業」及び遺跡見学会の実施により、学校教育及び社会教育の場で遺跡の遺構や遺物を公開し、埋蔵文化財保護に対する理解促進を図ることができた。</p>	文博
県立博物館・美術館等における活動の充実	126, 127	<p>郷土埼玉の歴史や伝統文化などの魅力を発信するため、県立博物館・美術館等において企画展・特別展等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主な企画展・特別展 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史と民俗の博物館：特別展「縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー」（観覧者数：7,956人）ほか ・さきたま史跡の博物館：企画展「二子山古墳と祈りの器」（観覧者数：10,066人）ほか ・嵐山史跡の博物館：企画展「武蔵武士の食と信仰ー食べて 祈って 戦ってー」（観覧者数：2,311人）ほか ・近代美術館：企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」（観覧者数：7,868人）ほか ・自然の博物館：企画展「はねー飛ぶ羽・鳴く翅・すごいハネー」（観覧者数：26,411人）ほか ・川の博物館：特別展「うんち・糞・フンⅡ」（観覧者数：22,037人）ほか ・文書館：企画展「苔多尼訶（ボタニカ）ー本草学から植物学へー」（観覧者数：1,352人）ほか ・さいたま文学館：企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ 番外編 たりめ堂へようこそ」（観覧者数：11,114人）ほか 	<p>さきたま史跡の博物館では、埼玉古墳群で最大の二子山古墳の発掘調査結果の紹介と、埼玉古墳群から出土した土器、埴輪等を展示した企画展「二子山古墳と祈りの器」を開催し、地域の身近な史跡等の文化財の魅力を発信でき、好評を博した。</p> <p>また、歴史と民俗の博物館においては、特別展「縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー」の開催に合わせ、県内の市立博物館等8施設と連携し、各館でオリジナルの縄文土器カードを作成し配布するなど、それぞれの博物館等で伝統文化等の魅力について、広く発信することができた。</p>	文博
博物館、美術館におけるSNS等による情報発信	0	<p>より多くの県民が伝統文化に触れるきっかけをつくるため、SNSや動画投稿サイトを活用した情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○8館の情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・X(旧Twitter)：令和5年度ポスト数：1,625回、フォロワー数：61,324人 ・Youtube：投稿総数：233本、再生回数：421,562回 	<p>各博物館・美術館においてSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を広く行い、博物館、美術館の魅力を広く伝えることができた。</p> <p>また、それぞれの特徴を生かした映像コンテンツを配信することで、多くの県民に学びの機会を提供することができた。</p>	文博

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●県立博物館等の年間利用者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●利用者数</td> <td>915,000</td> <td>938,719</td> <td>832,423</td> <td>302,544</td> <td>540,788</td> <td>627,505</td> <td>606,572</td> </tr> <tr> <td>●●●●●年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>938,000</td> <td>960,000</td> <td>970,000</td> <td>985,000</td> <td>1,000,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が最も大きかった令和2年度を底に、回復傾向にはあるものの、感染症拡大前の水準まで利用者は回復してきておらず、目標には達していない。 令和5年度は、各館の特色を生かした魅力的な企画展等を実施するとともに、感染症対策のため中止・規模縮小していた教育普及事業の再開やSNS等を活用した積極的な広報などを実施したことが利用者の増加につながったと考えているが、その一方、2館で工事による休館があったことから、結果として利用者数は前年度と比べて減少した。 ※大規模改修工事による休館期間 ・歴史と民俗の博物館 令和4年12月5日から令和5年10月13日まで ・さきたま史跡の博物館 令和5年9月1日から令和6年3月31日まで</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	●利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788	627,505	606,572	●●●●●年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000	<p>文博</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
●利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788	627,505	606,572																			
●●●●●年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>指標の達成状況に関して、目標値には未達とはいえ、各博物館・美術館において様々な企画展・特別展などが継続的に実施されていること、年度途中に大規模改修工事を終え、今後利用者が増加していくことが見込まれることなどから、更なる展開が期待できるとされる。また、その効果や実績が直接的に把握しづらいものの、文化遺産や文化財の調査・保護・保存もまた、継続して取り組むべき重要な事柄である。</p> <p>県立博物館の入場者数が昨年より減少したのは、大規模改修工事による休館の影響であり、また企画展等については企画準備期間を勘案すると、令和5年度まではコロナの影響を受けるため、目標未達もやむを得ないものと思われる。伝統文化の保存・維持や魅力の発信は埼玉県の魅力度向上や子供たちの地元へのアイデンティティ醸成に不可欠であるが、これは、時間をかけて継続的に取り組むべき課題である。そのため、県民の理解を深めるためにも、企画展等を通じて一般への周知や情報発信に努めていただきたい。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>文化遺産調査活用事業では、県立博物館が実施する学術調査を継続し、各分野における新たな資料の収集を行い、その結果を展示や講座などで公表していくとともに、引き続き文化財保存活用地域計画研修会を開催し、市町村の計画作成を支援する。</p> <p>文化財保護事業補助では、貴重な文化財を適切に保存し、後世に伝えるため保存事業や防災対策に補助金を交付していく。</p> <p>特別史跡埼玉古墳群の価値については、今後とも継続的な調査研究とともに積極的に情報発信を行う。また多彩な活用を行うためには埼玉古墳群の恒久的な保存が前提となるため、適切な整備事業、日々の管理を適切に実施していく。</p> <p>今後とも県が収蔵する出土文化財を将来に伝えるとともに、調査研究や生涯学習に資するよう適切に保存・管理する。また遺跡見学会、学校への出前授業等を実施し、埋蔵文化財保護思想のより一層の啓発を図る。</p> <p>県立博物館・美術館等では、各館の特色を生かした魅力的で質の高い展示や講座等を実施するとともに、広く情報発信していく。また、SNSや動画投稿サイトを積極的に活用し、各館の特徴を生かした映像コンテンツ等を積極的に配信するなど、各館における取組をより多くの県民に届けていく。</p>	<p>文博</p>																								